

一人一人の教育的ニーズに応じ、
生きる力をはぐくむ授業づくり

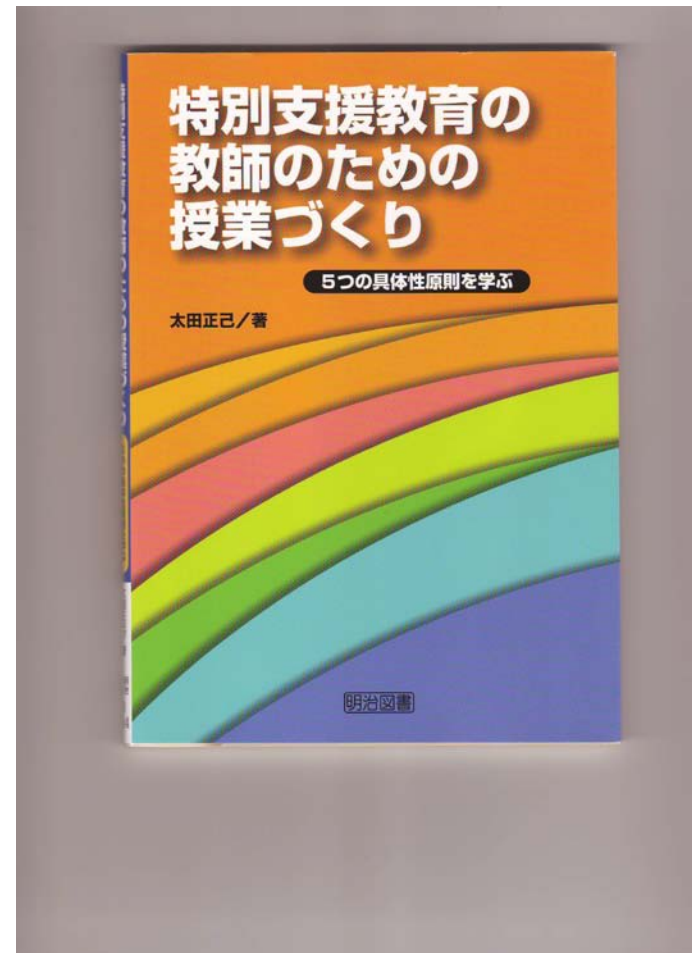
皇学館大学社会福祉学部
太田正己

広島市立広島特別支援学校H21. 12. 2



参考資料

- 『特別支援教育の教師のための授業づくり—5つの具体性原則を学ぶ』明治図書2009
- 『授業案作成と授業実践に役立つ特別支援学校の授業づくり基本用語集』黎明書房2008
- 『特別支援教育の授業研究法—ロマン・プロセス法詳説』黎明書房2007
- 『特別支援教育の授業づくり46のポイント』黎明書房2006
- 『特別支援教育のための授業力を高める方法』黎明書房2004



本日の課題

- 実態差のある学習集団において集団のよさを活かしながら、一人一人の力を伸ばしていく授業づくりはどのようにするか。
- 生きる力をはぐくむためには、12年間を見通した目標を定めて、系統立てて授業を考えていくことが大切であるが、小学部、中学部、高等部がどのように連携を図っていけばよいか。

特別支援学校学習指導要領解説

総則等編(幼稚部・小学部・中学部) H21.6

- 生活単元学習の指導計画の作成に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。
- (ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- ・
- ・
- (カ)

生活単元学習の授業例(中学部)

－単元「収穫祭」－

- 青森県立七戸養護学校(S59・60年度文部省研究指定校)
- 単元設定の理由

「収穫祭は収穫の喜びを皆で分かち合おうというものであり、自然に子供達の気持ちをひきつける。また個々の子どもの実態に応じて調理、装飾、販売、展示、発表など多彩な活動を子供達自身の手で展開することができ、日常の学習の成果を発揮する『山場』にもなる。」(下線太田)

単元の目標と指導計画

- 単元の目標
 - ・作物の成長を思い出し、収穫の喜びを味わいながら意欲的に活動する。
 - ・様々な集団での活動を通し、協力し合う態度を身につける。
- 単元の指導計画
 1. 収穫祭の計画を立てる。(3時間)
 2. 収穫祭の準備をする。(5時間)
 3. 収穫・計量をする。(16時間)
 4. 収穫祭をする。(6時間)
 5. 学習のまとめをする。(4時間)

指導計画から

○「収穫祭」の場合

- 計画－収穫祭の計画(3時間)
- 準備－収穫祭の準備(21時間)
- 実践－収穫祭(6時間)
- 反省－(まとめ)収穫祭のまとめ(4時間)

単元の意味

- 知的障害教育における単元とは、数時間から数十時間の指導計画の上で、計画、準備、実践、反省という展開をするような関連性をもった学習活動を行える学習内容のひとまとまりである。

題材の例(遊びの指導)

- 題材名「紙遊び」
- 指導計画
 - ①新聞紙で遊ぼう(大きな紙で)
 - ②新聞紙で遊ぼう(森を作ろう)
 - ③新聞紙で遊ぼう(動物と遊ぼう)
 - ④いろいろな紙で遊ぼう(たこあげ)

題材の例

- 遊ぶことそのものを繰り返すように教材を使い、実践の繰り返しの学習活動をおこなう。

題材による学習（題材学習）

- 障害の重度化の中では、計画、準備、あるいは反省という学習活動を行うことが難しくなっている。そのため、楽しく活動する実践の部分を繰り返し行う題材による授業が多くなる。

授業づくり(生活単元学習)における2つの視点

- 学び方(福島大学附属特別支援学校)
- 学習集団のよさ(岡大附属特別支援学校)

「学び方」への注目

生活単元学習『单元名：〇〇へいこう
ーハンドブックを活用した校外学習ー』

学び方に応じたグループ分け

○「手掛かり」「やりとりの手段」「学習の進め方」の観点から学び方に応じたA, Bの2つのグループに分かれて学習をする。

半澤敦司、他「学び方の違いに応じた学習形態の工夫～学び方の違いで分かれたグループ学習～」『特別支援教育の実践情報』2009, 128、72－73

Aグループの「学び方」

「手掛かり」: 視覚情報、言葉掛けなどの聴覚情報

「やりとりの手段」: 主に音声言語

「学習の進め方」: なぜこの学習をするのか理解し、納得しながら学習すること

Aグループ(対象生徒a)

「買い物の様子ビデオを見たり、過去の経験を自分で思い出したりして、自分の言葉で活動内容等を整理して計画を立てるグループ」

本時の目標(個別)

○対象生徒a

「自分で考えたり、教師とやりとりしたりしながら、持ち物や注文の順序をハンドブックに書くことができる。」

教授行為を具体化する②

(Aグループ3名・教師1名)

学習内容・活動	○支援、手立て	
	全 体	対象生徒a
6計画を立てる。 1)「たべたいもの」を記入する。 ・○○ドーナツ ・○○ジュース	○選択肢は店内のメニューを想定して文字でホワイトボードに提示するが、ドーナツは写真を提示することで、どんなドーナツかイメージが持てるようにする。	○文字の間違いがあつたときは、自分で読み直すように言葉掛けをして間違いに気付くようにする。

Bグループの「学び方」

「手掛かり」: 実物や写真、絵等の視覚情報

「やりとりの手段」: 身振りや教師と共有した短い言葉

「学習の進め方」: 簡潔な学習内容で、繰り返し行うこと

Bグループ(対象生徒b)

「教師が過去の経験からいくつかの選択肢を整理して提示したり、興味のあるものを予想して提示したりすることによって、活動内容等を整理して計画を立てるグループ」

本時の目標(個別)

○対象生徒b

「教師とやりとりをしながら、自分の食べたいものと飲みたいものを選択してハンドブックに貼ることができる。」

教授行為を具体化する③

(Bグループ6名・教師3名)

学習内容・活動	○支援、手立て	
	全 体	対象生徒b
<p>6計画を立てる。</p> <p>1)ドーナツと飲み物の写真チップを教師とやりとりしながら選び、シートに貼る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ドーナツの写真3つ・飲み物の写真3つ	<p>○ドーナツや飲み物を1つだけ選び、操作しやすいように写真チップをマジックテープで貼るようにする。</p>	<p>○ドーナツのシートと飲み物のシートを色別に用意し、写真チップの枠の色も同じくすることで、ドーナツ、飲み物を1つずつ選ぶことができるようにする。</p>

教授行為と学び方・目標の違い

対象生徒a	対象生徒b
<p>自分で考えたり、教師とやりとりしたりしながら、持ち物や注文の順序をハンドブックに書くことができる。</p>	<p>教師とやりとりをしながら、自分の食べたいものと飲みたいものを選択してハンドブックに貼ることができる。</p>

学習集団の学びの特徴

「授業づくりでは、個々の実態も重要であるが、個々の児童が集団の中で影響し合い、学習集団全体の学びの特徴や傾向がどうなっているのかを把握することがさらに重要だといえる。」

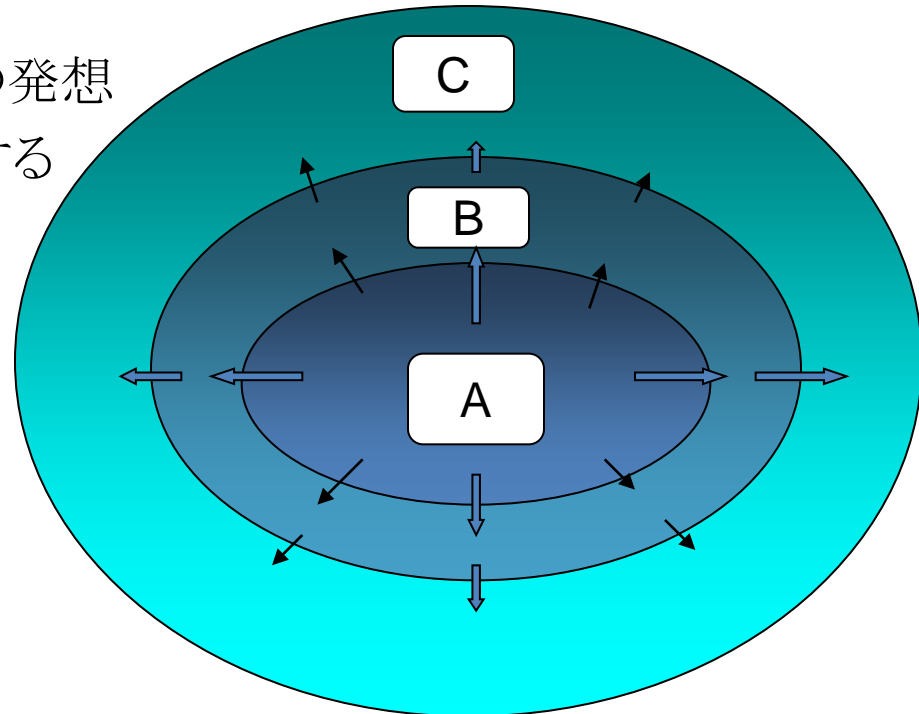
大野呂浩志「自閉症児童の課題解決の力と人とかかわる力の育成を大切に
した生活単元学習の取り組み」『特別支援教育の実践情報』2009(予定)

学習集団の学びの特徴

グループA:教師の説明を聞いてすぐに課題を理解し、積極的に自分の考えを表現し、活動する児童2名

グループB:グループAの児童の発想や動きをヒントに課題を理解する児童2名

グループC:グループAとグループBの作り出す活動の全体的な動きをヒントに少し遅れて課題を理解する児童2名



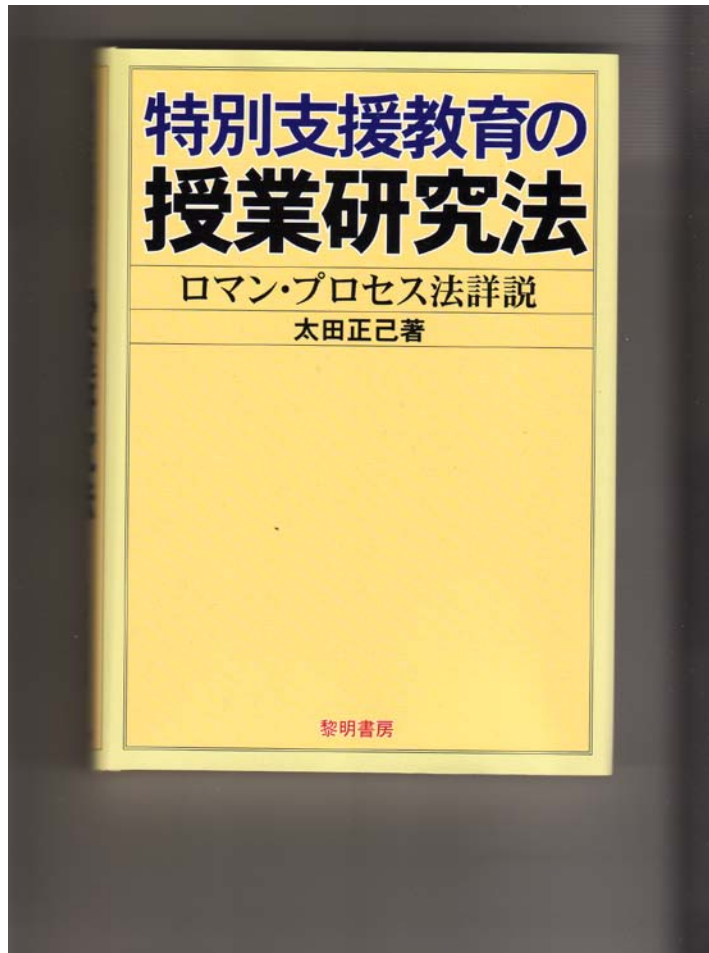
大野呂浩志「自閉症児童の課題解決の力と人とかかわる力の育成を大切にした生活単元学習の取り組み」『特別支援教育の実践情報』2009(予定)

学習集団の学びの特徴

- 「本報告の学習集団では即時に課題を理解し行動するグループAを中心にBおよびCへと、課題が波及していく学習の様子が多い。」

大野呂浩志「自閉症児童の課題解決の力と人とかかわる力の育成を大切に
した生活単元学習の取り組み」『特別支援教育の実践情報』2009(予定)

学部間(小・中・高)の連携のために



- 授業研究を通して、各学部の実際を知り、同僚性をたかめ、教育課程を検討する。

RP法(ロマン・プロセス・アプローチ)

- RP法とは、授業者と授業参観者が、授業の事実に基づいて、授業目標の適切さと目標達成の手段の妥当性を検討し、**授業者の意図を実現するように語り合うこと**である。

(参照: 太田正己『特別支援教育の授業研究法ーロマン・プロセス法詳説』黎明書房2007)

RP法(ロマン・プロセス・アプローチ)で学ぶ

○授業批評の過程は、**ROMAN** プロセス

①読解(授業案の) **R**eading

②参観(研究授業の) **O**bservation

③メモ(授業の核の) **M**emorandum

④分析(参観内容の) **A**nalysis

⑤語り(批評内容の) **N**arration

*持ち上げ、持て囃しではなく、

「持て成し批評」とも呼ぶ。



教育的ニーズに応じる

<教育目的は同じ(自立)>

○授業の何で、応じるか

- 目標の違い(例:計算力or買い物の力)
- 内容の違い(計算することor買い物すること)
- 教材の違い(教科書orコンビニ)
- 教授行為の違い(計算の仕方を説明するor
買い物カードで買うことを促す)
- 学習活動の違い(文章題を解くor買い物をする)

特別支援学校学習指導要領解説

総則等編(幼稚部・小学部・中学部) H21.6

- 「生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。」
- 平成20年度新教育課程説明会資料(特別支援学校)(平成21年1月)でも同じ。

H12年度まで、定義的記述には一見変化がない

- 「生活単元学習は、児童生徒が生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。」(平成12年度)
- 昭和49年版、平成3年版

特別支援学校学習指導要領解説

総則等編(幼稚部・小学部・中学部) H21.6

- 「生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われる。」

生活単元学習の分類

- 合わせた指導としての生単 (S41、49)
 - …読み、書き、算数
- 分けない指導としての生単 (S58、H3)
 - …見通し、意欲
- 一方法としての生単 (H12)

小学部低学年経験学習「春のくさばな」(三重)

本時の指導(1974)

学習活動	時間	学習要素	指導上の留意点
1. 草花の苗を見て話し合う。	10分	・花の名まえを書く (国語)	・ <u>種子と苗の関係をたどらせながら、栽培の興味をひき出したい。</u>
2. 教師の植えた鉢植えを見て話し合う。	10分	・根、茎、葉の区分 (生活)	・ <u>草花の根と茎と葉の区別を徹底したい。</u> それぞれのはたらきをわからせて、苗をたいせつにあつかうことの必要を知らせたい。

合わせた生活単元学習例

—1966年小学校「たのしいえんそく」—

- 教育課程編成の方針
 - ① 生活教育の立場をとる
「生活のための生活による教育」の考え方
 - ② 統合と合科を図る
 - ③ 養護学校学習指導要領を活用する

五十嵐鉄治「単元の種類と構成の仕方・展開例及び評価—小学校②」(山口
薫、編)『学習指導 I』日本文化科学社1966、99-123

単元「たのしいえんそく」

—目標・内容等—

○「指導内容」欄

- ・人の話をよくきく(国1ア)
- ・動植物に親しみ種類がわかる(理2, 3)
等の記述あり。

○ねらい(個人別)

- ・学級のリーダー格であり学習中の活発な発表を期待し、実施中はお世話役を果たさせる。
- ・数量的能力に比し、言語能力が劣っているので、動物の名前が書けるようにする。

分けない生活単元学習例

○生活中心教育

- 「生活中心の教育は、子どもの生活を何より大切にし、子どもたちの日々の学校生活のありようを問題にする。」
- 「遊びなら遊ぶ活動そのまま、・・・いずれも、教科等の内容に、そもそも分けるべきではない、実際的な活動から成るべきものである。」

(小出進、監修『実践生活中心教育』学習研究社2002)

単元「手づくりフェア‘98」

—1998年知的障害養護学校—

○単元におけるねがい

『手づくりフェア‘98』の成功を目指して、製品・生産物作りや準備活動、当日の活動に、全員で力を合わせて精一杯取り組んでほしい。

○本時のねがい(農耕班)

翌週の植え付け終了を目指し、全員で協力して、ジャガイモの植え付けをすすめてほしい。

○個人のねがい(種イモ入れ)

A:次々と種イモを入れてほしい。

B:できるだけたくさんの種イモを入れてほしい。